

東川で暮らしたい人のためのパンフレット

Higashikawa LIFE



人々が美しく
生きるまち

北海道 東川町

北海道 東川町

Hokkaido Higashikawa



人々が
うつくしく
生きる町



CONTENTS

- p4 東川町きほん情報
- p7. 暮らす前に知っておきたい 町の10のPOINT
- p14. リアルな生活を語ります！移住者座談会
- p18. もっとリアルを聞きたい！町民のホンネ
- p22. この町らしさがいっぱい 東川の学び
- p24. 嬉しい支援もたくさん 子育て・福祉
- p26. 暮らしに役立つ まちの施設
- p28. 気になったらどうする？ 東川移住との出会い方
- p29. 担当者が答えます！移住Q&A
- p30. まちなか暮らしマップ

旭川駅



30分

中心部

旭川市

旭川空港



15分

東神楽町

美瑛町

25分

忠別湖

旭岳

天人峽

東川町

HIGASHIKAWA TOWN
Basic Information

人口：8,692人（R7.12.31現在）
世帯数：4,417世帯（R7.12.31現在）
面積：247.30km²

きほん情報



観光

大雪山国立公園、旭岳温泉、天人峽温泉などの観光資源を有し、カフェめぐりや、冬季はスノースポーツを楽しめます。



お米

大雪山の雪解け水（地下水）で育てる「東川米」は、道内屈指のブランド米。北海道の米どころです。



写真

多くの町民の手によって、人、自然、文化を調和・融合させながら、写真文化を核としたまちづくりをしています。



木工家具

日本五大家具産地の一つ「旭川家具」の約30%を東川町で生産しており、クラフト・デザインのまちとしても知られます。

移住が増える住みよいまち

全国的な過疎化とは一線を画し、独自のまちづくりや美しい環境に惹かれた移住者によって、1990年代から約30年間にわたり人口増加・維持が続けている町です。



年間平均気温 8.2℃

年間累積降雪量 約500～600cm

最高気温 34.9℃

最低気温 -18.1℃

最深積雪 約100cm（目安）

※2025年データ

北海道最高峰の旭岳 2291m

日本のどこよりも早い紅葉と、夏まで残る雪渓が美しい大雪山の主峰。東川町の街並みの後ろには、いつもこの雄大な山容が広がっています。

大雪山国立公園 2,268km²

日本最大級の面積を誇る、野生動物や高山植物の宝庫。東川町はその「玄関口」であり、町域の約7割が森林で、約4割がこの国立公園に含まれます。

東京から 飛行機 羽田空港 約1時間30分 — バス・車 約15分 —
札幌から 車 約2時間30分 札幌IC～旭川北IC（約2時間） —
旭川から 飛行機 約2時間30分 特急ライラック／カムイ（約1時間30分） —
旭川から 車 約30分 —

東川町

／ 暮らす前に知っておきたい ／

町の10の *point*

大雪山の麓に広がり、清らかな天然水とともに暮らす東川町。四季折々の自然と、写真や家具に息づく洗練された文化が、心地よいバランスで日々の暮らしに溶け込んでいます。いま多くの人に選ばれている東川町の魅力を、10 の視点からご紹介します。



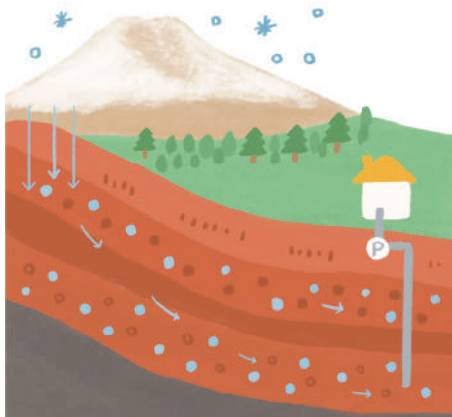
point
01

大雪山の麓、四季折々の豊かな自然

古来、アイヌの人たちが「カムイミントラ(神々の遊ぶ庭)」と呼んだ美しい景観を誇る大雪山。その主峰であり、北海道の最高峰でもある旭岳の麓に位置する東川町は、大雪山国立公園の玄関口です。週末には家族でキャンプやハイキング、冬にはスキーへ。大自然をそのまま感じられる環境が、日常のすぐ隣に息づいています。季節や場所、時間によってさまざまな表情を見せる山々。大雪山からの雪解け水は、東川米をはじめとする農業の発展にも大きく寄与してきました。雄大な自然に包まれた暮らしは、子どもたちの豊かな感性と健やかな身体を育みます。

自然

Nature



自然の恵みがもたらす 大雪山の天然水

東川町には、北海道内で唯一「上水道」がありません。大雪山の雪解け水が長い年月をかけて地中深くにしみ込み、汲み上げた豊かな伏流水とともに、町の人たちは暮らしています。多くの家庭では井戸を掘り、電動ポンプで汲み上げた天然のミネラルウォーターを生活水として利用。蛇口をひねれば、良質でおいしい天然水が飲める環境が日常にあります。町では安全な水質を守るため、水資源の保全にも真摯に取り組んできました。この水で育つ野菜やお米もまた、東川の暮らしを支える大切な自然の恵みです。

point
02

お水

Water



水とともにある町、東川

大雪山系の山々が、長い歳月をかけて育んだ清らかな雪解け水。東川町は、この水の恵みとともに暮らしをつくる町です。蛇口をひねれば、いつでも冷たくておいしい天然水。この水が、おいしい米や野菜を育て、日々の食卓を潤し、ここに暮らす人々の心まで心地よく満たしています。恵みの水に育まれ、自然の循環とともに生きる贅沢が、この町にはあります。



Education

世界と自然にひらかれた、 東川らしさ溢れる学び

東川町では、地域への愛着を育むと同時に、世界へ目を向ける広い視野を持つことを大切にしています。独自の国際教育教科「GLOBE」を取り入れるなど、町全体でグローバル教育に注力。さらに、世界中から留学生が集まる環境があり、子どもたちは日常のなかで多様な文化や価値観に触れることができます。一步外へ出れば、目の前に広がるのは豊かな自然資源。体験授業はもちろん、暮らしのすぐそばに自然があることそのものが、子どもたちの感性と健やかな成長をのびやかに支えています。

point
05

教育



point
06

30年選ばれ続ける、 あたたかな風土

東川町は約30年にわたり人口が増加し続けている稀有な町です。「写真の町」事業として早くからホームステイを受け入れ、さらに日本語を学ぶ留学生を受け入れてきたこともあり、外から来る人を自然に迎えるオープンな風土が根付いています。新しく移り住んだ人にも地域との交流が生まれやすいよう、コミュニティスペースも複数整備。知り合いのいない状態から新生活を始める子育て世代のファミリーにとっても、安心して地域に馴染んでいけるあたたかさがあります。

Community

コミュニティ



美味しい水が育む、 道内屈指の東川米

水のおいしさに加え、質の高いお米が収穫できることも、人々が東川町に惹かれる理由のひとつです。大雪山の伏流水、昼夜の寒暖差が大きい盆地特有の気候、そして整備された圃場。これらが重なり、東川町の豊かな食文化を支えています。なかでも「東川米」は、北海道内でも屈指のブランド米として高く評価され、主要品種のゆめぴりかは、ふっくらとした甘みとツヤが特徴。高い品質と安全性を追求し、特A評価を継続して獲得してきました。農薬の使用を抑えるなど、自然環境への配慮を重ねる生産者の真摯な姿勢が、日々の食卓に確かな豊かさを届けています。

point
03

お米 Rice

point
04

写真の町

Town of
Photography

文化を支える、 40年以上続く「写真の町」

1985年に「写真の町」を宣言した東川町。自然と文化と人が出会う、“写真映りのよい”まちとして、写真を中心に行政や住民といった枠を超え、自分たちの手でまちの文化を育んできました。東川の地で写真と世界の人々を繋ぐことを目指し、世界に開かれ、世界の人々が触れ合い、笑顔が生まれるまちづくりに取り組んできた歴史があります。東川町国際写真フェスティバルや写真甲子園は、暮らす人たちにとって大きな誇り。これらのイベントを、まちが一体となって創り上げる姿勢そのものが、東川町ならではの文化の基盤となっています。





point
07

景観

Landscape

大雪山と調和する 街並みまで美しい景観

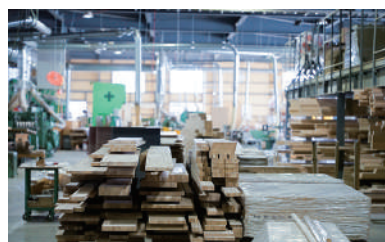
大雪山の雄大な山並みと広大な田園風景。東川町では、この景観を守り育てるための「景観計画」や「景観づくり条例」を定め、地域全体で美しい街並みをつくり上げています。自然と調和する「東川風住宅」の取り組みでは、原色を抑えた落ち着いた色彩、圧迫感のないオープンな庭と豊かな緑化、建物と調和するデザインなどの独自の指針のもと、ゆとりと統一感のある住宅景観が保たれています。住民みんなで育む、自然風景に馴染んだ街並みの美しさは、ここで暮らす人々の暮らしを豊かにする一助になっています。



*Woodworking
Industry*

職人の手仕事 that 息づく、 木工家具のある暮らし

東川町は、日本屈指の家具産地「旭川家具」の主要な生産地でもあり、職人の手仕事や美しい木工芸品が身近にある町です。町内で活動する職人の家具は公共施設に多く使われ、誰もが日常のなかで優れたデザインやアートに触れられる環境があります。町では、生まれた赤ちゃんに職人手づくりの木製椅子を贈る「君の椅子」プロジェクトなど、モノを大切にする心を育む取り組みも。さらに、世界の名作家具を公有化し、文化財として展示。本物の文化資本が暮らしに溶け込み、子どもたちの感性に豊かな刺激を与えています。



point
09

木工産業

point
10

適疎

Livability

未来へつなぐ、 「適疎」のまちづくり

東川町が目指すのは、ただ人口や経済を拡大することではありません。町に暮らす人々が幸せに生きられることを大切に、持続可能なまちづくりを進めています。過密でも過疎でもない「適疎」とは、仲間・時間・空間という三つの「間」があり、暮らしの中にほどよいゆとりがある状態のこと。地域課題を誰かに任せるのではなく、町全体で対話を重ねながら、丁寧に解決していく姿勢があります。先人たちが遺してくれた文化や歴史を未来へつなぐために、一人ひとりができることを考え、住民同士の顔が見え、町中で会話が弾むような景色を育てています。



point
08

*グルメ
gourmet*

小さな町に広がる、 70 以上の個性豊かな店

人口約 8,700 人の小さな町でありながら、東川町には個性的でセンスあふれるカフェやベーカリー、クラフトショップなどが 70 以上点在しています。どのお店も、東川の水や食材、この土地の空気に魅せられたオーナーたちが開いたこだわりの空間です。多くのお店では、東川ならではのモノやコトに出会うことができ、飲食店では天然水で育ったお米や野菜を使った食事を楽しむことができます。こうした店や場所の積み重なりが、日々の暮らしに小さな喜びとにぎわいを添えています。



四季の移ろいを感じ、 鮮やかに生きる

春は雪解けとともに命が芽吹き、短い夏は太陽の光を全身で浴びる。秋になれば日本で一番早い紅葉が山を染め、冬はきらめくパウダースノーと静寂の世界に。盆地特有の大きな寒暖差は、春夏秋冬のコントラストをくっきりと描き出してくれる。窓の外の景色は日々変わり、食卓に並ぶ旬の味わいが移りゆく。めぐる時を五感で味わい、季節の変化を愛おしむ暮らし。



人の良さを引き出してくれる町

全国的にも移住者に人気の町として知られる東川町。移住者は町にたくさんいますが、その決め手は人それぞれです。

移住前は福岡県に住んでいたラミスさんは、家族でより心地よく住める環境を探すなかで見つけた東川町の情報が「どれもドンピシャ」で、一度訪れてみることにしたそう。

「そしたら、調べていた時のいい印象と変わらなかった。夫がフランス人なんです。山に囲まれた景色が、アルプスの麓にある夫の故郷そっくりで！海外から来た方も多いですし、きっと夫も心地よく住めるだろうなと思って、移住を決めました」

自然、子育て、
役場職員の印象……
移住の決め手は人それぞれ



子供を自由に
遊ばせてあげられる

うなと思って、移住を決めました」

一方、大の山好きである松野さんは、大雪山の麓にある東川町に13年前に移住してきました。決め手はやはり、自然の近さ。「登山をするために山の近くに住みたいと思っていたんですが、数ある山の中でも大雪山は、アイヌの人が『神々の遊ぶ庭』って呼んだのもわかるような雄大さで、グッときました」

東京からUターンしてきた杉本さんの移住の決め手は、子育て環境。東京に住んでいたときは、子どもを遊ばせる場所に困っていましたが、「その点、東川町ならいくらでも外遊びができる。子どもを自由に遊ばせてあげられるなと思ったんです」

定年を機に7年前に移住した大橋夫妻の決め手は、意外にも「町役場の職員」。「移住先を探している時に、役場の担当課長とお話していたら、『町をこんなふうにしていきたい！』という思いを持っていたのが伝わってきたんです。こんな人が活躍している役場なら、きっとこの町は面白くなっていきそうだと期待が持てた。だから、ここに移住を決めたんです」(英治さん)

子どもも大人も、
のびのびとできる環境

移住前に思い描いていたイメージと、住んでみての印象は違うもの。みなさん、実際に東川町で暮らしてみても、町にどんな印象を持っているのでしょうか。

「移住して7年経ちますが、『ここへ来て失敗した』って思ったことはないです」ときっぱり言い切るのは、祥子さん。「東京生まれ東京育ちだから、雪がたくさん降る土地に暮らして大丈夫かしら、と心配していたけど、『雪が嫌だ』って思ったことも一度もない。雪が少ないと、寂しくなるくらいです」

冬は移住前に想像していたほど寒くないですね、という話に、みなさん「本当にそう!」と頷いていました。雪かきについても、「最初は



話しかけやすい
雰囲気がありますね

わからないことはたくさんあったけど、まわりの人に聞けばなんとかなる」と英治さん。町にはかつて雪かき初心者だった先輩移住者がたくさんいるので、困ったら助けてもらえる文化があるようです。

また、ラミスさんは子どもの姿が印象的だったよう。「まちなかで見かける子どもが、みんなキラキラとしているんですよ！中高生も、すごく楽しそうに一緒に下校していたりして、それがとても印象的で、『うちの子ども、こんな風に育ってくれたらいいなあ』と思うんです。『町には、知らない人にも『こんにちは!』と挨拶する子どもたちの姿もあります。子どもがのびのびと成長できるのも、この町の特徴のようです。』

のびのびできるのは、子どもだけではなくありません。「東川町では、せかせかして人を見かけない。まちなかですれ違う人もお店の人も、余裕がある感じがして、話しかけやすい雰囲気がありますね」とラミスさんが言う。英治さんも「この町には、人のいい面を引き出すような雰囲気があるのかもね」と頷きます。

「私は地元だから、それが普通だと思ってた(笑)」と杉本さんは言う

リアルな生活を語ります!

移住者座談会

移住を考えると、気になるのが実際の移住者の声ではないでしょうか。

おはなし会という形式で、何げない日常の話やリアルな移住エピソードを教えてくださいました。



ラミス千秋さん

【2026年1月～福岡県より移住】
暮らしをお試ししながら滞在できる「東川暮らし体験館」で、夫(フランス人)息子(小6)と三人暮らし。東川町にある特別養護老人ホームの職員。

松野和美さん

【北海道岩見沢市より13年前に移住】
「Cafetune」スタッフ。登山が好きで、以前は旭岳で環境保護に関わる仕事をしていた。現在は夫・娘(中2)・息子(小3)と4人暮らし。

杉本亜美さん

【東京都よりUターン】
東川町出身。結婚・子育てをきっかけに移住。夫は単身赴任中で、娘(中1)・息子(小4・小2)と4人暮らし。幼児センターで保育士として働いている。

大橋夫妻

【東京都より7年前に移住】
英治さん、祥子さんご夫婦。町で開催されているコンディショニング講座や、日本語ボランティアに参加するなど、定年後も充実した暮らしを送っている。



育まれた自然への感謝の気持ち

素敵な作品にお散歩

ついでに触れられる



ように、この町では大人も子どもも
のびのびとしているのがあたり前
になっているよう。自然の雄大さ、
空の広さ、まわりの人の余裕：そう
いったことが、のびのびとした暮ら
しを可能にしているのでしょう。

自然だけでなく、文化も豊か

では、ズバリ、「東川町に住んでよ
かった」と思えることはなんなの
でしょうか。

杉本さんは、自然に囲まれた環
境で過ごせることは、子どもにとっ
て学びが大きいと感じているそう。
「例えば東京では、星空を観察する
宿題が出て、星空なんて見えな
かった。それが東川町では、毎日星

空が見える。『いつでもこんな景色
が見れるのはすごいことだよ』っ
て、子どもも風景に息を呑んでいる
ことがあるんですよ」

様子さんは、文化の豊かさも東川
町の魅力だと言います。「せんとびゅ
あや東川町文化ギャラリーでは、よ
く写真や椅子などの展示が開催さ
れています。わざわざ電車や車で出
掛けなくても、素敵な作品にお散歩
のついでに触れることができる。そ
れって、すごいことだと思うんです」

また、ものづくりが好きなラミス
さんにとって、町でさまざまなワー
クシヨップが行われていることも嬉
しいことなのだそうです。「東川町はも
のづくりのワークシヨップがすごく
盛んですよ。私は趣味で蠟燭（蜜
蠟キャンドル等）を作っているので、
蜜蠟作りのワークシヨップに参加し
たりしていますが、それ以外にも気
になるワークシヨップがたくさんあ
ります」

たしかに公共施設の掲示板を見
ると、木工のワークシヨップや、写真
に関するワークシヨップなど、面白
そうな企画のお知らせがずらり。
「地方に移住すると娯楽がなくなる
のでは」と心配になる人もいるで
しょうが、実は東川町では、ものづく

りやアート、自然体験といった娯楽
がとても充実しているようです。

長い冬は、初めての人には
正直こたえるかも？

ここまでは、東川町の魅力につい
てたくさん聞くことができました
が、是非とも聞きたいのがリアルな
本音。東川町に住んでみて、困った
ことはあるのでしょうか？

「病院の選択肢の少なさは、困る
ことがありますね」と言うのは杉本
さん。東川町には外科、小児科、内
科、リハビリテーション科の機能を
備えた東川町立診療所があります
が、それ以外の病院はないので、選
択肢は限られています。たとえば子
どもが熱を出したとき、行きたいと
きに予約がとれず、隣町である旭
川市まで車で行かなくてはいいけ
ないときもあるそうです。

ラミスさんが困ったこととして
挙げるのは、冬の日の短さと、冬の
長さ。

東川町では、12月の冬至の頃
には16時前には日が沈みます。そし
て、桜が咲くのはゴールデンウィー
クあたり。日が短く、長い冬は、慣

れていないとこたえてしまう人もい
るようです。「私は初めての東川町
での冬を経験したんですけど、4月
になっても寒さが続くのはちょっと
心が折れそうになりました。これか
ら移住される方は『冬の終わりは遅
いぞ』って思っておいた方がいい
(笑)」（ラミスさん）

ただ、長い冬があるからこそその喜
びもあると大橋さん。「北欧など
は、一年で最も昼が長い日である夏
至をお祝いの『夏至祭』がありま
すけど、東川町で暮らすようになっ
て、夏至をお祝いの意味がわかり
ましたね。『こんなにも日が長い季
節なんだから、楽しまないとどうす
んの！』っていう気持ちになります
(笑)」

趣味もまちづくりも、
やりたいことを実現しやすい町

最後に、東川町への移住を検討し
ている方に伝えたいことを聞いて
みました。

みなさんから挙がったのは、「東
川町は、やりたいことを実現しやす
い町」だということ。

「東川町には、自分の手で町をより

自分たちで変えていける町



興味があることを
深めていきやすい

住みやすい場所にしていけるよさも
ある気がします。誰かが町をよくし
てくれるのを待つのではなく、自分
で取り組むことができる。やりたい
ことを口に出すと、仲間が集まりや
すいんです。(英治さん)

まちづくりのような活動以外に
も、自分が興味あることにチャレン
ジできる環境が、東川町にはあるそ
う。松野さんも、「ここでは、興味が
あることを深めていきやすい」と言
います。「東川町では、有名な方が講
演会やワークシヨップに来ることも
結構ある。地方にいながらも、興味
がある分野で著名な方の話が聞ける
のはいいところだと思っています」

杉本さんも、「そういったイベント
やワークシヨップが、多岐にわたる
分野で開催されているのが面白い」
と頷きます。東川町では、椅子研究
家の織田憲嗣さんが収集した家具
と日用品の『織田コレクション』に
ついて学ぶ子ども向けのイベント
や、バードハウスを作るワーク
シヨップ、町立日本語学校に通う海
外の方と交流できるイベントなど、
アートからものづくり、国際交流、
アウトドアまで幅広い企画が開催
されています。「興味を持ったこと
を学んでみる機会がこの町には多
いと思うし、『やりたい』と口に出
しても、否定されずに応援してもら
える町だなと感じています」(杉本
さん)

人口およそ八千七百人の小さな
町にもかかわらず、東川町では近
年、移住者が次々にカフェや本屋、
映画館などをオープンさせており、
恒例のクリスマスマーケットをはじ
めあちこちで開催されるマーケット
では、自分で作ったものを販売する
人たちの姿が。やりたいことを叶
えた移住者たちの存在は、東川町が
「やりたいことを実現しやすい町」
であることを物語っています。

深く澄んだ、 静かな冬を愛おしむ。

1月から2月にかけて、氷点下10度を下回る日もしばしば。けれど、この厳しい寒さが、この町に息を呑むような美しい景色を連れてきてくれます。舞い落ちる雪は水分を含まない、ふわりと軽いパウダースノー。町の景色は真っ白な雪化粧をまとい、静寂の世界が広がります。外の空気がキンと冷え込むほど、暖炉の薪がはぜる音や、一杯のコーヒーの香りが身に染みる季節。この長く深い冬があるからこそ、日々のささやかな喜びが胸に響くのです。

実際どうなの？

東川の 冬暮らし

Winter life in HIGASHIKAWA

どれくらい
積もる？

01 雪質と量

12月～3月が本格的な積雪期で、最深積雪は1m～1.5mほどになります。気温はマイナス10度を下回る日もありますが、内陸特有のサラサラとした良質なパウダースノーなので、雪質は非常に軽いため、本州の豪雪地帯に比べて除雪は楽ともいえます。



02 町のサポート

「毎日ひたすら雪かき？」と不安になりますが、東川町は優れた除雪体制を誇ります。早朝に主要道路や通学路には除雪車が入るため、通勤通学に大きな支障はありません。大きな道路から玄関までの距離がある家庭では、若干苦勞をすることも。

除雪って
どうする？



03 冬の三種の神器

移住した最初の冬に揃えたいのが、一度にたくさん雪を運べる「雪かきスコップ」や「スノーダンパ」。また、車に積もった雪を払う「スノーブラシ」も毎日の必須アイテムです。これらがあれば、日々の雪片付けもグッと楽になります。

マストな
雪かきグッズ

04 防寒の基本

車での移動も多いため、ロングコートではなく、防風・防寒性の高いダウンやアウトドアブランドのアウターが重宝します。また、マイナス10度よりも気温が下がる1月～2月は、靴底にしっかり溝があるスノーブーツや、手袋、耳まで隠れる帽子は必須。

服装の
ヒント



07 雪国の住まい

東川町の家々は高気密・高断熱で建てられているため、冬でも室内は驚くほどポカポカ。寒さを我慢するストレスは少ないのが実情。ただし、冬場に数日間家を空ける(帰省など)際は、室内の暖房を完全に切らずに一定温度に保つなど、水道凍結を防ぐ雪国ならではの知恵も大切です。

お家の
温度管理と
水道凍結



08 洗濯物について

氷点下になる北海道の冬は、洗濯物を外に干すと凍ってしまいます。そのため、冬の間は100%「部屋干し」が基本です。「乾くの？」と心配になりますが、パワフルな暖房のおかげで室内は程よく乾燥しており、一晩でカラリと乾きます。部屋の加湿にもなって一石二鳥です。

洗濯物は
どこに干す？

09 雪国の暖房

多くの家には、屋外に大きな灯油タンクが設置されています。本州のように「なくなったら買いに行く」のではなく、地元の燃料業者さんと契約して、定期的に巡回・給油してもらうシステムが一般的です。これで、厳しい冬の間も燃料切れの心配なく安心して過ごせます。

灯油の「定期配送」
システム



10 極上のアクティビティ

大変なイメージがある冬ですが、大自然の恩恵を一番受けられる季節でもあります。大雪山・旭岳の麓にある東川町は、世界中が羨むパウダースノーの聖地。週末にサクッとスキーやスノーボード、スノーシューを楽しみ、帰りに町内の心地よいカフェや温泉で温まる。そんな贅沢なライフスタイルが待っています。

冬を
遊び尽くす！



冬の車選
びと
対策

05 足回りの準備

坂道や雪道での発進を考えると、家族の車は「4WD(四輪駆動)」を選ぶのが一番安心です。10月下旬には冬用のスタッドレスタイヤへ交換し、ワイパーやウインドウォッシャー液も冬用に切り替えます。スピードを落とし、車間距離を空ければ雪道運転も怖くありません。

06 車について

タイヤや4WD以外にも、雪国ならではの車の作法があります。凍結を防ぐために「駐車時はワイパーを立てる」「サイドブレーキは引かずP(パーキング)に入れる」のが基本。万が一のバッテリー上がりや、雪にハマった(スタックした)時に備えて、JAFなどのロードサービスに入っておくと安心。

知っておきたい
「車の冬ルール」



この町らしさがいっぱい 東川の学び

自然の恵みや地域の人、多様な文化との出会いが、子どもたちの学びにつながる東川町。
感性や思いを大切にしながら、自分で考え、これからの社会を生きる力を育てています。

『生きる力』を育む

東川の教育

東川町の教育は、机に向かう学びだけでなくとどまりません。子どもの感性や思いを大切にしながら、「生きる力」を育むことを基本方針にしています。互いを思いやる心や東川町への愛着、地域や世界に目を向ける視点。そうした力を、日々の学びの中で育てていきます。学ぶことの楽しさを実感できる機会が多く用意されていることも、東川らしい教育の特徴のひとつです。



日常の中にある

国際交流

写真の町の取組みによる世界への文化発信に加え、子どもたちが多様な文化や価値観にふれる機会が充実しています。総務省などが実施する外国人青年招致事業「JETプログラム」では、今現在、18カ国23人の職員が所属し、さまざまな場面で活躍。町内イベントでは、自国の文化紹介や料理の提供を行うなど、日常の中で多様な交流が生まれています。



海外都市とのつながり

国際的に開かれたまちづくりを目指す東川町。カナダ、ラトビア、ロシアの都市と姉妹都市提携を結び、韓国・ヨンウォル郡とは文化交流協定都市として他国との文化交流を深めています。



JET プログラム

外国語指導助手（ALT）、国際交流員（CIR）、スポーツ国際交流員（SEA）の3つの職種を、1992年から段階的に増員。日本との違いだけでなく、国ごとの文化や価値観の違いにふれる機会にも。

農のまちで、

地域の恵みを知る食育

小学校5年時には、授業の一環でお米づくりを体験。自分たちで育てたお米を、自然の恵みに感謝しながら味わうことで、食と農のつながりを学んでいます。中学校の最終学年では、フレンチのフルコースを通して、食事の楽しさやマナーを学ぶテーブル講座も。地域の環境や文化、人を知るこうした体験が、自分で考える力を育むことにもつながっています。



夢や進路に

向き合う学習サポートの充実

探究学習や進路を支える取り組みも充実しています。公設塾「学び舎ひがしかわ」では、希望する進路の実現に向けた学習機会を提供し、高校生たちの学びをサポート。さらに、中学生と大人のための学びあいの場「カフェス」では、社会人、大学生、高校生が現在取り組んでいる仕事や研究、活動内容だけでなく、その進路やキャリアを選択した背景にある想いや価値観を学びます。学力面の支援に加え、社会に出る前から自分の将来について考える機会があることも、東川町の学びの特徴です。



LOCAL'S TABLE

まちの生産者や料理人たちが中心となって立ち上げた食育の取り組み。「東川」ならではの食文化を学ぶ授業を展開し、素材を活かす工夫や知恵、テーブルマナーなどを実践者から直接教わります。

田んぼの学校

東川小学校に併設されている「東川ゆめ公園」の体験農園で、田植えから稲刈りまで、自分たちの手でお米を育てる体験をします。収穫したお米は給食で味わい、「育てる」「食べる」「伝える」ことへの理解を深めます。



LIPフェス

2日間にわたって、対話と内省を通して自分の目的意識を見つけていく学びの場。地域も巻き込みながら、「なぜ働くのか」「自分は何をしたいのか」といった問いに向き合います。

学び舎ひがしかわ

2022年からスタートした東川町公設塾。放課後事業として、高校生たちの学びを支えています。進路やキャリアに関するプログラムなど、学習指導以外のカリキュラムも実施しています。

町民 VOICE !



柳澤さん 40代
移住歴1年半

自然と国際交流や異文化体験ができる

東川町は、さまざまな国際交流の試みが行われているのが魅力。「GLOBE」という授業では、外国人の先生達が身近な存在に。さらにその先生達による、放課後事業の「めだかのクラブ」、スポーツをする「ふあんすぽ」、せんとびゅあや改善センターで行われる国際交流イベントもあり、子ども達は自然と異文化への関心が深まると感じています。



子育て BOX

宝島社がプロデュースする北欧デザインのブランド「Kippis」から、新生児グッズやパパ・ママのケア用品など、子育ての始まりを支えるアイテムが詰まったボックスが贈られます。

不妊治療費助成

保険適用とされた分の自己負担額を全額助成。年齢や所得による制限はなく、事実婚も対象となります。金銭的な不安をやわらげながら、安心して治療に向き合えるよう支えています。



子ども地域見守りシステム

無料で発行できる「子ども HUC カード」は、公共施設などに設置された端末にかざすだけで、通過したことを保護者へ自動通知。地域ぐるみで子どもの安全をサポートする仕組みです。

免許返納後の支援

高齢者ハイヤー・バス利用料金助成制度、さらには東川町が提供する車両を住民が運転し、利用者の自宅から町内の目的地まで運ぶ「みまもりカー」など、免許を返納した後も安心して移動できるようサポート。

町民 VOICE !



内山さん 40代
移住歴 2 年半

多様な人が支え合い子育てをする風土

東川町の魅力は、地域全体で子育てを支えてくれるところ。親子で気軽に立ち寄れる居場所が多く、自然と声をかけてもらえる環境があります。定住者や移住者、外国の方など、さまざまな世代や立場の人と繋がりながら子育てができることもこの町ならではの、また「しずくらいん」は、子どもや高齢者、出産前後の方への助成もあり、郊外でも行動範囲が広がることもありがたいです。

家族の安心を支える 子育て支援

東川町では、子どもたちの成長だけでなく、育てる家族への支援も大切にしています。2021年からは、不妊治療費の全額助成を全国でも先駆けて導入。さらに、妊産婦を対象にしたお掃除代行サービスや、産前産後のママとその家族に向けた町内カフェランチの宅配サービス、クーポンの付与も。子育ての日々を支える、充実した取り組みが用意されています。



子どもも高齢者も 安心して出かけられるまちへ

地域の移動手段として運行する「しずくらいん」は、子どもから高齢者まで、誰もが町内を移動しやすいようにつくられた仕組みです。実証実験や町民アンケートなどをもとに、利用者の予約によって運行ルートが決まる予約型乗合バスとなりました。子どもの見守りや免許返納後の移動支援なども含め、日々の安心と暮らしを支える仕組みが整えられています。



嬉しい支援もたくさん 東川の子育て・福祉

制度による支援はもちろん、人と人が関わり合い、顔の見える関係の中で安心を育む東川町。まちの人たちがゆるやかにつながりながら、日々の暮らしを支え合っています。



幼児センター(ももがの家)

幼保連携型認定こども園です。子育て支援センターを併設し、広々とした環境でたくさんの友達と遊びや体験を通して豊かな心を育みます。地域人材を活用し、地域全体で成長を見守ります。

多種多様なイベント

町の施設を最大限に活用し、町や団体が子どもからシニア世代に向けて様々なイベントを企画・運営。世代を超えて集い、交流する機会が多い町です。



地域で見守り合う あたたかな福祉

東川町が大切にしているのは、誰もが居場所と役割を持てる「こちゃまぜ」のコミュニティづくり。0歳児保育や長時間保育などの子育て支援に加え、高齢者や障がい者が活躍できる場や交流の機会も広がっています。町内には、町民が気軽に集えるオープンスペースも点在。世代や立場をこえて自然に交わる時間が、日々の暮らしの中に息づいています。



君の椅子

町で生まれた子どもへ「生まれてくれてありがとう」の想いを込めた木製の椅子を贈る事業。その温かな理念に感銘し、2006年、東川町が最初に賛同し、今では13自治体に。町や地域の想いと町が誇る職人の技とが、子どもの成長に寄り添い歩んでいます。

学びの机と椅子

3年間使い込んだ「学びの椅子」は、卒業記念として卒業式の日に贈られます。机は授業の一環として、生徒自身でメンテナンスを行い、それを後輩に受け継いでいくことで、物を大切にできる心も育まれています。



木のぬくもりで寄り添う 東川の贈り物

東川町では、町に生まれた子どもたちへ「君の椅子」や木製の「乳歯&へその緒入れ」が贈られ、中学入学時には、一人ひとりの名前が刻印された「学びの椅子」が用意されています。子どもの成長をまち全体で温かく見守りたいという思いを込め、幼いころから町内木工事業者が手づくりする木工や家具を身近に感じる環境が、東川らしい暮らしと学びの文化を支えています。

暮らしに役立つ まちの

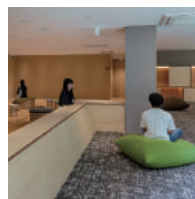
サウナが魅力の
洗練された温浴施設



キトウシの森 きとろん

温浴施設 飲食店舗

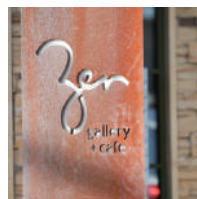
「キトウシの森」に佇む温浴施設。東川の美しい田園風景を眼下に望む露天風呂や、こだわりのサウナ、日替わりのお湯が日々の疲れを心地よく癒やしてくれます。館内には地元の食材を楽しめるレストランや、子どもと一緒にくつろげるスペースも完備。キトウシの森で遊んだあとに、夕日を眺めながら入るお風呂。東川暮らしの幸せを実感できるはず。



東川スタイル カフェ ZEN

飲食店舗 テレワーク

東川の美味しい水で淹れたこだわりのコーヒーや、地元の食材も活かしたランチ、自家製ケーキなどのメニューを楽しむことができるカフェ。町内のさまざまな工場の木工家具にも注目です。さらに2階にはコワーキングスペースもあり、食事や喫茶を楽しみつつ、仕事に集中もできる、多様な使い方が可能な場所です。



町内木工家具が設置
仕事もできるカフェ



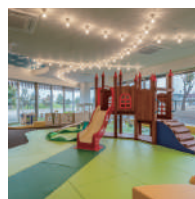
多様な使い方ができる
まちの新しい交流施設



共生プラザ そらいろ

ジム こどもエリア

地域のあらゆる世代が自然に集い、交流できる全世代交流施設です。誰もが気軽に立ち寄れる交流ルームや子どもたちがのびのびと遊べるこどもらんど、ほふくコーナー、キッチン、器具や設備の整った健康づくりルーム（ジム）、様々な活動ができる活動ルームを備えています。仕切りが少ないオープンスペースで、多様な使い方が可能な場所。



施設

東川町には、子どもたちがのびのび遊べる場所や、家族でリフレッシュできる温浴施設、日常的な情報収集や交流ができるスポットが充実しています。毎日の暮らしに寄り添う、まちの拠点をご案内!

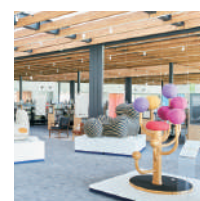
モノ、ヒト、コトが
集うみんなのいばしょ



せんとびゅあ I・II

図書機能 テレワーク ギャラリー
おみやげ 飲食店舗 こどもエリア

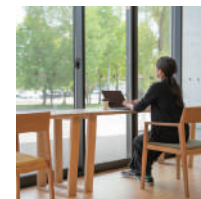
東川町の文化拠点である、図書機能を持った複合交流施設。「せんとびゅあII」には、子ども向けの絵本から専門書、写真集まで、約8万冊の蔵書があります。館内には世界的な椅子研究家・織田憲嗣氏の「織田コレクション」を見られるギャラリーも。コワーキングスペースや日本語学校も併設され、日常的に多様な文化が混ざり合うみんなの居場所です。



東川町文化ギャラリー

テレワーク ギャラリー

「写真の町」東川町のシンボリックな施設である文化ギャラリー。国内外の優れた写真作品が年間を通じて展示されています。併設されているラウンジは、鑑賞の合間や日常のワークスペースとして、誰でも気軽に利用することが可能。子どもも大人も、本物の芸術や写真文化に自然と触れ、豊かな感性を育むことができる環境が、日々の暮らしに溶け込んでいます。



「写真の町」が誇る
写真文化発信拠点



道の駅ひがしかわ 道草館

おみやげ 飲食店舗



町の中心部に位置し、観光客だけでなく町民の日常なお買い物の場所としても親しまれている道の駅。館内には地元の特産品や町内の新鮮な農産物が並び、お散歩がてらの買い物にぴったり。イベント情報や最新の暮らしの情報も集まるため、移住初期の情報収集や、休日に家族でふらりと「道草」をしながらまちの活気を感じるのにおすすめ。

担当者がお答えします！

東川移住 Q & A

Q 車は必須ですか？
移動手段は何がありますか？

A 鉄道がないため自家用車があると便利です。公共交通は旭川駅や旭川空港、旭岳行きのバスがあります。更に事前登録で利用できる予約制乗合バス「しずくらいん」(町内巡回)も重宝します。

Q 普段の買い物で不便を感じることはありませんか？

A 町内にはスーパーやドラッグストア、カフェや直売所が充実しています。さらに車で 20~30 分の隣町・旭川市には大型商業施設や家電量販店も多いため、日常の買い物で不便を感じることはほぼありません。

Q 仕事はどうやって探しますか？

A 町内や車で 20~30 分で通勤できる旭川市で探す方が多いです。ハローワーク等の活用のほか、町内のコワーキングスペースを利用したテレワークや起業など、多様な働き方を選ぶ移住者も増えています。

Q 地域に溶け込めるか不安です。どうしたらいいですか？

A 町民の半分が移住者で、多様な生き方を認め合う風土があります。町主催のイベントや地域の行事、サークル活動に少しずつ参加することで、お互いに心地よい距離感の仲間づくりが自然とできる環境です。

Q 移住に伴う補助金や支援金制度はありますか？

A 要件を満たせば対象となる移住支援金や、住宅関連・起業を後押しする各種補助を整えています。単なる金銭支援ではなく景観や環境といった暮らしの質を高めることで、結果的に選ばれる町づくりを進めています。

Q 水道料金はどうなっていますか？

A 東川町は「上水道がない町」で、全世帯が大雪山の美味しい地下水を利用しています。上水道の基本料金はかからず(下水道代のみ必要)、蛇口をひねればいつでも冷たい天然ミネラルウォーターを味わえます。

Q 住居はどうやって探したらいいですか？

A 公式空き家バンクや一般サイトの検索に加え、独自ルートを持つ町内不動産会社への相談もお勧めです。相談窓口では事業者リストも提供できます。お問い合わせも多いので、まずはお気軽にご相談ください。

Q 町内に病院はありますか？
緊急時はどうすればいいですか？

A 町内には内科・小児科などの町立診療所や歯科があり日常の診察は安心です。夜間や緊急時も車で約 20 分の旭川市内に総合病院や大学病院など医療体制の整った施設が揃っているため万が一の際にも困りません。

Q 町内会への加入やご近所付き合いは必要ですか？

A 「顔の見える関係」を大切にしており、原則町内会の加入をお願いしています。過度な干渉はなく心地よい距離感で助け合うのが東川流。移住者が半数を占める町だからこそ、新住民を温かく迎える土壌が整っています。

Q 北海道は光熱費が高いと聞きますが、生活費はどうですか？

A 都市部に比べて冬の暖房費はかかりますが、上水道代がかからない事で住居費も抑えられます。さらに直売所等を上手に活用すれば、新鮮な野菜やお米も手に入るため、QOL 向上とコスト抑制の両立ができます。

気になったらどうする？

東川移住との出会い方

東川町での暮らしが気になり始めたら、まずは知る・触れる一歩を踏み出してみませんか？
移住相談会から、リアルなお試し移住まで、段階に合わせて東川町と出会うきっかけをご用意しています。

出会い方その1

各地で開催の 移住相談会へ！

「まずは、東川の話を知りたい」という方は、都市部で開催される移住フェアへお越しください。町の雰囲気や仕事、住まいなど、気になる疑問にスタッフが丁寧に答えします。移住への第一歩として、お気軽にご相談をお待ちしています。



イベントを
楽しみながら
東川を知ろう！



冬のくらしを体験！



出会い方その2

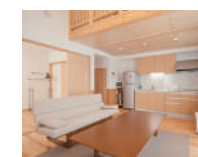
町で開催される 移住ツアーに参加！

町のリアルな空気感や魅力を、丸ごと体感できる「移住ツアー」を実施しています。お店を訪ねたり、子育てや仕事環境を巡ったりと、通常の観光では味わえない「実際の暮らし」に深く触れられる、大好評のステップアップ企画です。

出会い方その3

東川に足を運ぼう！ 可能なら移住体験も

移住への気持ちが高まったら、ぜひ実際に東川町を訪れてみてください。四季折々の自然や美しい町並み、町民と直接交流することで暮らしのイメージが鮮明に。体験移住施設を利用し、町の一員としての日常を試すのもおすすめです。



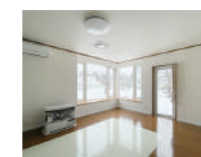
【短期】
大雪遊水ハウス

5泊~14泊までの、家具・家電や生活用品が完備されたお試し住宅。少し中心部からは外れますが、実際の町暮らしを快適にじっくり体験できます。



【長期】
東川暮らし体験館

町中心部に位置する、東川町での移住生活を短期~中期でじっくり試せる体験型施設です。地域に馴染みながら、将来の暮らし方を具体化できます。



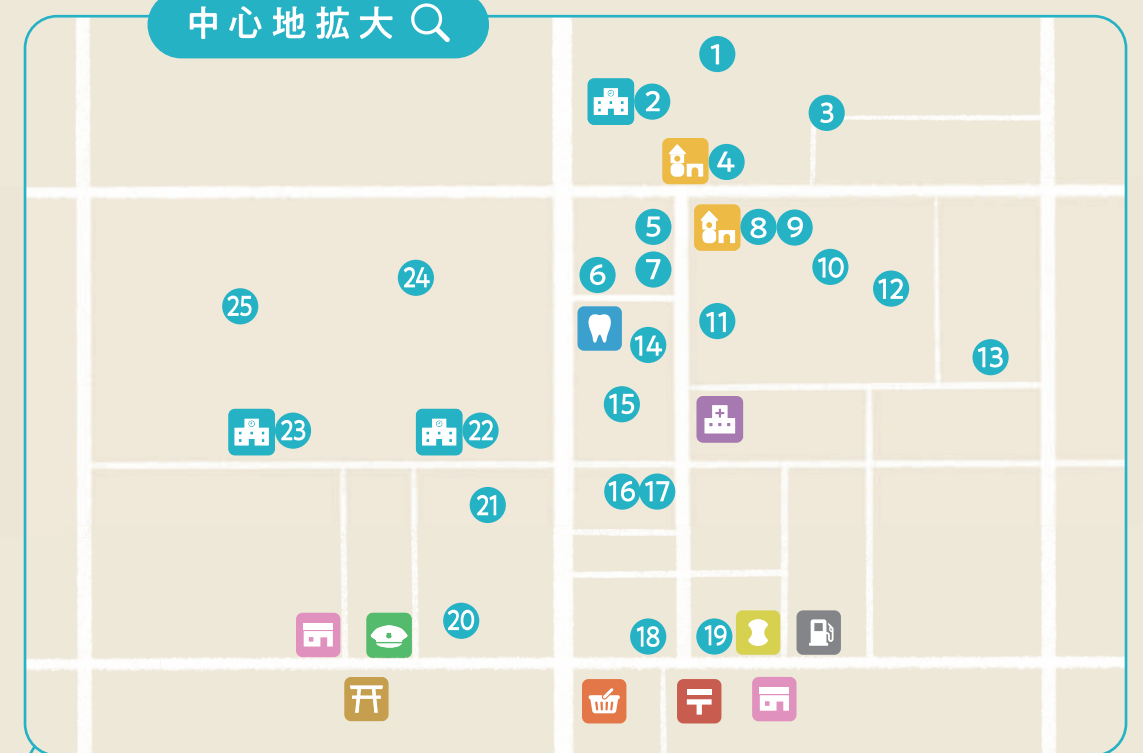
【長期】
中間管理住宅

町が間に入り管理・提供する安心の移住者向け賃貸住宅です。本格的な移住の準備期間や、最初の住まいとしてご活用いただけます。

まちなか暮らしマップ

東川町は、大きく4つの小学校区に分かれ、中心部に公共施設や生活利便施設が集まるコンパクトなまち。町民も利用する主要な施設をまとめました。

- | | | | | | |
|------|---------|-----|-----|----|----------|
| 学校 | ドラッグストア | 診療所 | 郵便局 | 銀行 | ガソリンスタンド |
| スーパー | コンビニ | 歯医者 | 駐在所 | 神社 | 幼稚園・保育園 |



- | | | |
|------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1 ゆめ公園 | 9 小規模保育園
東川くるみの木 | 17 ふるさと交流センター・しごとコンビニ |
| 2 東川小学校 | 10 農村環境改善センター | 18 道の駅ひがしかわ「道草館」 |
| 3 東川町地域交流センター
(ゆめりん)・学童保育 | 11 シニアセンター | 19 モンベル 大雪ひがしかわ店 |
| 4 東川町幼児センター
ももんが | 12 開拓記念羽衣公園 | 20 せんとびゅあII |
| 5 子育て応援ルーム ひまわり | 13 東川町共生プラザそらいろ
東川町社会福祉協議会 | 21 せんとびゅあI
東川町立東川日本語学校 |
| 6 小西健二音楽堂 | 14 東川町 郷土館 | 22 東川中学校 |
| 7 東川町文化ギャラリー | 15 東川町役場 | 23 北海道東川高等学校 |
| 8 東川こまき保育園 | 16 教育支援室「はあとろむ」 | 24 東川町 B&G 海洋センター |
| | | 25 東川町民グラウンド |





2026 年 9 月 25 日発行

企画・発行：写真文化首都北海道「写真の町」東川町
編集：畠田大詩

写真：大塚友記憲（表紙,p7）、今田耕太郎（裏表紙）、安永ケンタウロス（p6,12-13,21）、和田北斗（p14-17）
執筆：田村結奈（p7-11,p22-25）、山中散歩（p14-20）
デザイン・イラスト：田中日菜子

〒071-1492

北海道上川郡東川町東町1丁目16-1
写真文化首都 北海道「写真の町」東川町

Created in HIGASHIKAWA
©Photo town HIGASHIKAWA All Rights Reserved.